

進駐軍の玄関口になった神奈川県



オーストラリア戦争記念館所蔵・昭和館提供



昭和館提供

▲ 厚木飛行場で挨拶を受けるマッカーサー（昭和20年8月30日）

マッカーサーの右隣は、アメリカ第8軍司令部（GHQが東京都に移転した後も神奈川県に残り続け、日本中の進駐軍を統括した）司令官アイケルバーガー中将

◀ 厚木飛行場に降り立つマッカーサー（昭和20年8月30日）

当時の厚木飛行場付近は日本軍の徹底抗戦の動きがあったばかり。日本軍の撤退が進められる一方で、飛行場の警備にあたる警察官が不足していた神奈川県は、国に働きかけて近隣府県から応援をかき集めました。（神奈川県：約3,000名、近隣府県：約2,000名）

終戦してまもなく 突然の難題に直面



ホテルニューグランド（昭和20年9月1日）昭和館提供
接收され、マッカーサーら進駐軍首脳の宿舎となりました。

8月15日に終戦を迎えた直後である8月21日の深夜、国から県に一本の電話が入ります。「連合国軍が8月26日から最初の進駐先として神奈川県に来るので、受入・警備の準備をしてほしい」というものでした。

戦時体制と空襲によって物資が不足し、荒廃した環境の中で、県は国などと協力しつつ、連合国軍のために、設備が整った住居、倉庫用の敷地や200台以上の自動車等を用意しなければならませんでした。

8月30日の昼、連合国軍最高司令官ダグラス・マッカーサーが厚木飛行場に到着。夕方には横浜に進駐してきました。9月初旬には、県内に5万人をこえる進駐軍が駐屯しました。



かながわ「昭和100年」

つながる心、ともに未来へ